

全國優良経営体 調査等委託事業

現地調査報告書

概要版

●経営改善部門

●生産技術革新部門

●6次産業化部門

●販売革新部門

●働き方改革部門

●担い手づくり部門

全国優良経営体調査等委託事業 現地調査報告書 [概要版]

目次

経営改善部門

① 株式会社桜井畜産 (群馬県 前橋市)	2
② 株式会社アグリスト (岐阜県 高山市)	3
③ 有限会社もりかわ農場 (滋賀県 長浜市)	4
④ 株式会社あぐり一石 (石川県 白山市)	5
⑤ 株式会社百姓屋 (佐賀県 伊万里市)	6

生産技術革新部門

⑥ 有限会社岩石農産 (佐賀県 白石町)	7
⑦ 野田 伸一・桂子 (長崎県 諫早市)	8
⑧ 農事組合法人高野生産組合 (新潟県 上越市)	9
⑨ 有限会社ひかりファーム (富山県 小矢部市)	10
⑩ 株式会社石橋果樹園 (佐賀県 佐賀市)	11

6次産業化部門

⑪ 有限会社ふあむ (徳島県 鳴門市)	12
⑫ 有限会社ナカシマファーム (佐賀県 嬉野市)	13

販売革新部門

⑬ フィールドマスター合同会社 (熊本県 八代市)	14
⑭ 株式会社宮崎茶房 (宮崎県 五ヶ瀬町)	15
⑮ 株式会社高田牧場 (長崎県 南島原市)	16

働き方改革部門

⑯ 吉牟田 太 (佐賀県 嬉野市)	17
-------------------------	----

担い手づくり部門

⑰ 山口 仁司 (佐賀県 武雄市)	18
⑲ 有限会社農園ビギン (新潟県 小千谷市)	19

経営改善部門

1



株式会社桜井畜産【群馬県前橋市】

代表者名：桜井 克真
事業概要：肉用牛肥育・販売
経営規模：肉用牛肥育 1,200頭
従業員数：10名（役員4名、従業員6名）

特徴的な取組

1. オールインオールアウト方式で肥育を安定化

牛舎1棟（約100頭）を1口とし、肉用牛肥育としては珍しいオールインオールアウトの管理を行う。これにより作業の手間を省き、病気の抑制や肥育のバラツキを抑える等の飼養管理の効率化が図られている。



2. 血統重視の買い付けと飼養管理で早期出荷を実現

一般的には26か月齢で出荷するところを24か月齢で早期出荷できる体制を構築し、牛舎の回転率を上げている。飼料設計や、増体系の血統に併せた管理を行い効果的に肥育することで1頭当たりの枝肉重量も増加している。また、年に2～3回北海道へ行き血統の良い牛を買いつけを行っている。



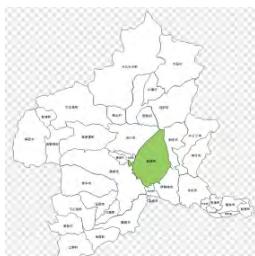
3. 家畜商としても地域農家と連携

家畜商は祖父の時代から行っていたが、20年ほど前から運搬だけでなく買い付けも行うようになった。地域の牛を多く取り扱っており、目利きとして肉牛農家からの信頼は厚い。近隣の肥育農家6軒と連携し、買い付けから出荷まで共同で行い、牛の輸送を代行している。家畜の代理輸送は、高齢化する周辺農家の労働力不足の解消にも役立っている。また、地元の家畜市場で継続的に売買することで優良な素牛が多く取引されるよう取組んでいく。



《地域の特色》

当地域は群馬県中央部に位置し、農業産出額は357億円。畜産が65.7%、野菜が22.4%と2部門で全体の88%を占めている。さらに、米麦、花き、果樹なども地域の特性を活かした生産が行われている。



《経営の沿革》

昭和54年：現会長が20才で就農。
平成3年：現在の畜舎へ移転、200頭規模に拡大。
その後4年ごとに100頭ずつ増頭。
令和元年：株式会社桜井畜産設立。
長男克真氏が代表に就任。

現在（令和6年3月）は、肉用牛肥育1,200頭 売上高5.8億円、従業員数10名となっている。

2



株式会社アグリスト【岐阜県高山市】

代表者名：中野 俊彦

事業概要：トマト（施設）・菌床しいたけを生産、花もち加工

経営規模：5.1ha（トマト28,000m²、しいたけ2.2万ブロック、花もち50俵、イチゴ苗1,500m²、スナップエンドウ1,200m²、水稻2.0ha）

従業員数：13名（役員4名、従業員9名、）アルバイト7名

特徴的な取組

1. トマトの新品種導入による単収・品質の向上による経営改善を実現

夏秋トマトの売上向上を目指すうえ、裂果および着果不良が多く発生していることが課題であったため、耐暑性品種の「麗月」を導入した。

結果、単収は高山市平均の11.6t/10aを上回る13t/10aまで引き上げることができ、経営改善が実現した。



2. 多角化経営の展開により安定した周年雇用を実現

高山市は中山間地域が多く豪雪地帯のため、周年雇用が難しい地域である。冬場に菌床しいたけ栽培を導入することで、安定した周年雇用形態を確立した。

トマトの生産力向上、ならびに地域雇用創出が可能となり、自社経営の改善のみならず、地域農業の発展にも貢献した。



3. 産地をけん引するリーダーとして地域農業発展に貢献

地域内においてトマトの新品種導入に先進的に取り組み、新品种（麗月）を産地にも普及させた。

地域でトップクラスの経営規模を有し、法人化による大規模経営の先導役として、地域の大規模化を目指す農業者のモデルケースとなり、地域農業発展に貢献している。



《地域の特色》

高山市は、集落と耕地が点在する中山間地域で標高差が極めて著しく、年間を通じて寒暖の差が大きい豪雪地帯。

夏秋トマトや夏ほうれんそうなどの高冷地野菜の生産が盛んで、その他ブランド牛「飛驒牛」生産などの畜産業も盛んである。



《経営の沿革》

平成14年：親元就農

平成25年：岐阜県青年農業士認定

平成27年：株式会社アグリストを設立（法人化）

令和4年：岐阜県指導農業士認定

現在（令和5年4月）は、夏秋トマトを中心とした多角化経営で、売上高1.7億円、従業員数13名となっている。

経営改善部門

3



有限会社もりかわ農場【滋賀県長浜市】

代表者名：森川 勝

事業概要：水稻、麦、大豆、野菜、果樹の生産・販売

経営規模：140.1ha（水稻94.8ha、麦類23.7ha、大豆20.6ha、野菜1.0ha）

従業員数：12名（役員3名、従業員9名）

特徴的な取組

1. 食の安全や環境に配慮した農産物の生産に取り組む

「人の体に入るものは安全でないといけない」、「自然と共生できなければ農業は継続できない」という代表の信念のもと、平成2年頃から減農薬栽培を開始。環境汚染が国際的に問題となる以前からプラスチックレス肥料への切り替え等、食の安全と環境に配慮した農産物の生産に取組んでいる。



2. 丁寧な栽培管理で、地域の信頼獲得と規模拡大を実現

大規模経営ながら丁寧な栽培管理を実施していることから、地域からの信頼が非常に高く、平成12年の法人化当時20haであった経営面積は令和5年140haへと拡大した。管理する農地は長浜市高月町を中心に17集落、約230人の地権者から約580筆の農地を預かり、全てに農場の看板を設置し、従業員が責任をもって管理にあたっている。



3. 高品質の農産物を作り、販路の確保・拡大に

品種・ほ場条件に応じた水管理や、施肥体系の切り替えなど細かな対応により品質を確保し、収穫後は低温で管理、注文に応じて精米し配送を行うなどの徹底した品質管理により、高品質なお米が評価され、現在は、卸業者や外食業者への出荷に加え、インターネット販売やふるさと納税の返礼品など、個人向けの販路も確保している。



《地域の特色》

県の北東部に位置し、琵琶湖湖辺の平坦な農業地帯から伊吹山系等の中山間地域を含む地域である。全耕地面積のうち、9割が水田となっている。その他、計画的に麦・大豆・そば・水田野菜といった土地利用型の畑作物が作付けられている



《経営の沿革》

昭和57年：現代表が就農。

平成12年：有限会社もりかわ農場を設立。

米の無農薬栽培を開始。

平成18年：新社屋へ移転。

平成19年：有機JAS認証を受ける。（以後毎年）

平成25年：いちじく栽培を開始。

現在（令和6年6月）は、水稻94.8ha、大豆23.7haなど140haまで経営面積が拡大しており、売上高1.4億円、従業員数12名となっている。

4



株式会社あぐり一石【石川県白山市】

代表者名：代表 新田 義宣

事業概要：水稻・大豆・大麦の栽培

経営規模：115.1ha（水稻80.0ha、大豆25.6ha、大麦9.0ha、
ネギ0.5ha）

従業員数：9名（役員4名、従業員5名）

特徴的な取組

1. 省力化技術導入による労働生産性向上を実現

トラクターのメンテナスに毎年一定程度費用がかかっていることから、コストパフォーマンスを高めるため付属機械等を導入。またその他省力化に資する機械を導入。

具体的には、けん引式の作業形態に対応できる機械やドローン導入により、従来の作業時間の4割削減を実現した。



2. 先駆的な取り組みによる水稻・大豆栽培を行い、生産性向上を実現

県内初に近い時期にスリップローラーシーダーを始めとした技術・農法等を導入した。

結果として、作業時間の削減（従来より5割削減）や栽培面積の拡大が可能となっている。



3. 規模拡大を見据えた先行投資を実施

地域農業の受け皿として急激に規模拡大を実施。規模拡大を見据えた先行投資（ライスセンター）を行うことで、100haの水稻面積に対応できた。

トラクター・コンバイン等の大型機械も適宜導入していることで、面積拡大に対応できている。



《地域の特色》

白山市は、日本海式気候に属し、特性が顕著に現れる冬期には、北西からの季節風により気温が低く雪の降る日が多くなる。

白山市大規模経営体への農地集積も進んでおり、集積率は県内で最も高い77%（県全体64%）となっている。



《経営の沿革》

平成22年：周辺農業者5名と会社を設立。

令和元年：ライスセンター建設。

令和3年：代表の長男・次男が役員に就任。

令和5年：農地面積100haまで面積を拡大。

現在（令和6年3月）は、経営面積115.1haまで面積拡大を行い、売上高89百万円、従業員数5名となっている。

経営改善部門

5



株式会社 百姓屋【佐賀県伊万里市】

代表者名：市丸 初美

事業概要：養鶏（ブロイラー）、花苗、直売事業

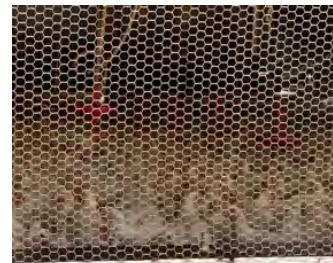
経営規模：ブロイラー 70万羽、花苗 1,500m²

従業員数：9名（役員4名、従業員5名）、アルバイト3名

特徴的な取組

1. 最新式ウインドレス鶏舎導入によりコスト低減を実現

就農当初、飼養頭数年間10万羽だったものが、令和5年までに年間70万羽まで規模拡大。その間、飼料等の生産費のコスト高に課題認識があった。最新式ウインドレス鶏舎の導入を契機に2戸1鶏舎（1鶏舎内を2つの空間に分ける）を完成させ、保温する容積を少なくすることで生産費削減を実現することができた。（早春導入雛のガス代は旧鶏舎と比較して49%低減）



2. 6次産業化の取組により佐賀県産ブランド「骨太有明鶏」の知名度向上を実現

佐賀県産ブランド「骨太有明鶏」の素晴らしさをより広めるため、自社ブランドの加工商品を多数展開。自社直売所での強い訴求や商談会出品、SNSでのPRに努めて、複数の賞を受賞し、知名度向上に寄与した。



3. 販売力強化のためのブランド化への取組み

花苗事業について、令和5年に環境制御型耐候性花ハウスの設置を契機に収益性の強化を図っている。販売力強化のため、ブロイラーのみならず、花苗「百笑(momoemi)」の商標登録を実現。今後は当ブランドの生産量を増やし、花苗事業の収益性強化に取り組む。



《地域の特色》

伊万里市は佐賀県北西部に位置し、気象は降水量が多く、日照時間が短い特徴がある。主要農産物は、ナシ、ブドウ等の果樹や肥育牛、施設キュウリ。



《経営の沿革》

平成6年：夫婦で就農。

平成24年：株式会社百姓屋を設立。（法人化）

令和3年：ウインドレス鶏舎の設立。

令和5年：環境制御型耐候性花ハウスの設立。

現在（令和6年2月）は、ブロイラー70万羽、花苗1,500m²/haまで経営面積が拡大しており、売上高3.7億円、従業員数9名となっている。

6



有限会社岩石農産【佐賀県杵島郡白石町】

代表者名：岩石 学

事業概要：水稻、麦、大豆、玉ねぎ等の生産・販売と作業受託

経営規模：70.5ha（水稻19.8ha、麦類41.8ha、タマネギ3.1ha）

従業員数：3名（役員1名、従業員2名）

特徴的な取組

1. 先進技術の導入により作業を効率化

GPS搭載トラクターや、ドローン等のICT機器の導入を、地域はもちろん県内でもいち早く行い、活用。また、これらスマート農機の効果の最大化を図るため、RTK基地局も整備した。若い従業員が楽しみながら、正確な作業ができる体制を整え、労力の軽減と作業効率の向上を図っている。



2. グループ組成で、地域課題を解決

露地野菜の安定供給のため、北部九州の大規模経営体に呼びかけ、グループを設立。気象災害等で、収量を確保出来ない時に、連携できる体制を構築。近隣6軒の農家で菜種を活用した地域おこしに取り組み、菜の花祭りなども実施し、観光客や買い物の客の誘致につなげている。農地集約が進められる中、地域内外の均平作業が増加する事に備えて、町内のレーザーレベラー所有農家とコントラクター組織を立ち上げ、ほ場整備を進めるなど、地域課題の解決に尽力している。



3. 成果は地域へ還元し、稼ぐ産地づくりを目指す

毎年1つ新しい事にチャレンジし、成果は地域農業へ還元することをモットーとしている。地域に先駆けた先進技術や機器の導入、露地野菜の大型機械導入による作業の効率化など、得られた成果は地域の農業組織等で報告し、普及拡大に努めている。次世代育成についても、希望する者には生産技術だけでなく、経営に関する経験も支援し、独立就農に向けたひとづくりを実践。稼げる産地づくりを目指している。



《地域の特色》

白石町は、佐賀南部に広がる白石平野に位置し、米麦 大豆を主体とする土地利用型作物、タマネギ、レンコン、キャベツ、レタス等の露地野菜、イチゴ、アスパラガス等の施設園芸野菜等多様な作物が展開されている。



《経営の沿革》

平成10年： 現代表が就農。
平成18年： 有限会社岩石農産設立。

現在（令和6年3月）は、水稻19.8ha、麦類41.8ha、玉ねぎ3.1ha。売上高5,300万円、従業員数3名となっている。

生産技術革新部門

7



野田伸一・桂子【長崎県諫早市森山町】

代表者名：野田伸一氏・桂子

事業概要：花き（スカビオサ）、水稻、WCSの生産・販売

経営規模：1.6ha（花き7,500m²、水稻0.45ha、WCS 0.4ha）

従業員数：6名（役員4名、従業員2名）

特徴的な取組

1. 全国的に栽培が少ない草花類を経営の主に

草花類65aを栽培する施設花き専業農家。全国でも栽培が少ないスカビオサを県内で初めて本格栽培し、交配によるオリジナル系統の作出、挿し芽による増殖技術を独自開発。環境制御技術を導入したハウスの活用等により高品質・安定生産を実現、草花類経営を確立した。



2. 多数のオリジナル系統が市場で高評価を得る

良品を選んで独自に交配を行い、商品性の高い花色・花型を持つ系統を選抜、挿し芽増殖し、品種登録はしていないがオリジナル系統として栽培を行っており、これまでにないようなオレンジやピンク系、複色系品種など豊富な花色や、育種選抜により花持ちの良さが、市場で高い評価を得ている。アメリカへも輸出され、海外でのスカビオサの認知度が向上し、海外の種苗メーカーによる育種も始まった。日本へも苗供給が行われ、国内でも生産・需要ともに拡大している。



3. 高規格施設栽培で高収量・高収益を実現

計画的に規模拡大を進めるため、省力技術・環境制御技術を積極的に導入した。高温対策のため、全国的に例の少ない軒高の高いフェンロー型ハウスの導入や、灌水同時施肥システムの導入、光合成促進用炭酸ガス発生装置とハウス内環境モニタリングに基づく環境制御機器の整備等をいち早く行い、安定的に栽培できる環境を整えた。これにより、高い生産性を実現し、収益も向上している。



《地域の特色》

諫早市は県の中央に位置し、広大な干拓地や肥沃な丘陵地など自然の恵みの豊かな地域特性を生かして、水稻、野菜、果樹等の経営を主体とした多彩な経営が展開されている。



《経営の沿革》

平成12年： 現代表が就農

現在（令和6年3月）は、花き7,500m²、水稻0.45ha、WCS 0.4ha。売上高5,461万円、従業員数6名となっている。



農事組合法人 高野生産組合【新潟県上越市】

代表者名：閨間 忠裕

事業概要：水稻 大豆、露地野菜の生産・販売と作業受託

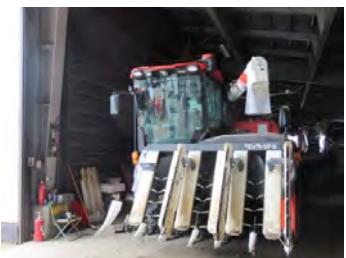
経営規模：70.5ha（水稻66.6ha、大豆3.7ha、露地野菜0.2ha）

従業員数：8名（役員5名、従業員3名）

特徴的な取組

1. 地域農業持続のための経営モデル

令和元年に完了した基盤整備を契機に、大区画ほ場でのスマート農業一貫体系実証事業に参加。持続可能な地域農業を目指し、省力・低コストに向けたスマート農業の実践を加速させている。経験や習熟度に左右されない新たな労働力が参入しやすい環境整備と作業の効率化・省力化を進めている。新技术にいち早く取り組むことで、地域の経営体を牽引している。



2. 水稲栽培の徹底した省力・低コスト化

用途別の米生産については、収量・品質の安定確保と生産コスト削減の両立が課題となっていた。実証事業で導入した技術・スマート農機やシステム等を組合せ、より労働生産性の高い、効率的な生産に取り組んでいる。地域の土壌性質・気候に合致した不耕起V溝乾田直播にも、県内最大規模で取り組み、作業時間の削減と、コスト削減を図っている。



3. 余剰労力で排水対策を実施し、複合経営を進める

大豆栽培の団地化による収量・品質の向上と、経営安定のための園芸作物の導入には、この地域特有の重粘土質土壌の排水対策が必須であった。そこで、水稻経営の作業の省力化により生じた労力を活用し、明渠や補助暗渠の確実な施工を行い、併せて低コスト・省力化を実現する技術も導入した。大豆は反収が向上し、園芸作物は労力・コストともに削減されている。



《地域の特色》

上越市は新潟県の南西に位置し、当組合がある板倉区は上越市南東部に位置する豪雪地帯である。肥沃な重粘土質の土壤のため、市内でも有数の稻作地帯である一方で、大豆等の戦略作物の取組も多く、水田転換畑における取組も盛んな地域である。



《経営の沿革》

昭和46年：第二次農業構造改善事業により機械共同利用型の高野生産組合を創立。（参加83戸）

平成16年：（農）高野生産組合を設立。

平成30年：県営高野地区経営体育成基盤整備事業採択。大区画ほ場（最大4.2ha）整備の着工、令和5年完了。

令和元年：農林水産省スマート農業実証プロジェクト事業実施。

現在（令和6年3月）は、水稻66.6ha、大豆3.7ha、玉ねぎ0.2ha。売上高8,900万円、従業員数8名となっている。

生産技術革新部門

9



有限会社ひかりファーム【富山県小矢部市】

代表者名：小倉 豊明

事業概要：トマト生産（施設園芸）、果樹生産

経営規模：2,820m²、0.5ha（施設4棟 2,820m²、果樹0.5ha）

従業員数：3名（役員3名）

特徴的な取組

1. 「深層水トマト」生産により、高い糖度を誇る大玉フルーツトマトの生産を実現

メーカー技術の水耕栽培と富山湾の深層水を組み合わせ、深層水によりトマトの成育中の給水を抑制させる、独自の栽培方法を確立。これにより、高糖度フルーツトマトの生産を実現。品質は評価されており、全国のお客に購入してもらえている。



2. コアなネットワーク構築により、高品質のトマト生産を実現

20年程度前に、協和株式会社が立ち上げたフルーツトマト部会にて意気投合した全国の農家のうち10名程度でコアなネットワークを構築した。自由闊達な意見交換や実証実験を行っており、高品質のトマトを生産する技術を開発



3. フルーツトマト生産等の挑戦

市場にないもの、お客様が喜ぶものを作りたいという思い、またつくば万博でのハイポニカ栽培のお披露目を間近で見て感銘を受けたこともあり、米の一大産地である地域でフルーツトマト生産に挑戦。今後はさらにフルーツトマトの技術革新やマンゴー等の新品目に挑戦する意向あり。



《地域の特色》

小矢部市は、富山県西部の小矢部川・庄川の扇状地で、散居村で有名な砺波平野の北部に位置した水田地帯で、稻作を主体とした水田農業が展開されている。



《経営の沿革》

平成7年：就農しミニトマトを生産。

平成16年：法人化し、有限会社ひかりファームを設立。

平成23年：市内の施設園芸の生産者で構成した「小矢部施設園芸組合」を設立。

平成26年：代表の子息が就農。

現在（令和6年1月）は、施設4棟のトマト2,820m²、果樹0.5haまで経営面積を拡大。売上高33百万円、従業員数3名となっている。

10



株式会社石橋果樹園【佐賀県佐賀市大和町】

代表者名：石橋 健一

事業概要：温州みかん、モモ、スモモ等果樹の生産・販売

経営規模：10ha（温州みかん8.1ha、モモ1.5ha、スモモ0.2ha

シャインマスカット0.1ha、レモン0.1ha）

従業員数：4名（役員2名、従業員2名）

特徴的な取組

1. 伝統を活かしつつ、新たな技術で品質向上を目指す

大和地区伝統の貯蔵みかん「蔵入りみかん」を経営の柱としているが、腐敗果の発生によるロスを解消すべく、九州大学が開発したプラズマ発生装置を活用した腐敗対策の実証に取り組んでいる。

併せて全ての園地で「脱化学物質栽培」を実行し、免疫力の高い果樹を育む環境づくりを目指している。



2. いち早く海外への販売を展開

自社生産した品質の高い果実を多くの人に届けるため、国内市場に留まらず、いち早く海外市場への展開を開始している。2023年にA S I A G A Pを取得。競合他社が多い中、輸入条件の厳しい国・地域への輸出に挑戦し、輸出市場とし注目度の高いベトナムについては、輸入解禁の翌年から輸出を開始している。現在、香港、シンガポールへも輸出しており、今後は、米国・E Uも視野に入れて輸出を拡大していく。



3. 地域の牽引約として

中山間地域等直接支払制度の協定集落の中では、役員として集落の若手の声を地域の将来ビジョンに反映させている。また、集落で取り組む耕作放棄地の解消では、2020～2023年にかけて、約100aを借り受けて果樹園に再生し、周辺樹園地でのイノシシ被害軽減に寄与している。新規就農希望者の受け皿として、希望者を2年間雇用し、技術の習得と「のれん分け」による第三者継承により独立就農させる計画を、関係機関と進めている。



《地域の特色》

佐賀市大和地区は、内陸型気候であり、高糖系温州みかん（青島、大津、清水）を中心とした「貯蔵みかん」が主力の産地である。平均的な経営面積は約3haであり、柑橘専令和2年：株式会社石橋果樹園設立。業農家が多い。極早生、早生については、有明海に面した温暖な気候である太良町（一部長崎県小長井町）の出作地で栽培されており、適地適作を実践している。



《経営の沿革》

現在（令和6年3月）は、温州みかん8.1ha、モモ1.5ha、スモモ0.2ha、シャインマスカット0.1ha、レモン0.1ha、売上高3,674万円、従業員数4名となっている。